

Link Web IPU
このマークの記事の詳細は
岩手県立大ホームページに
掲載しています。
URL / <http://www.iwate-pu.ac.jp/>

02 特集1
体育祭実行委員会の活動
滝沢キャンパス・宮古キャンパス
初の合同体育祭
開催までの道のり



CONTENTS

04 特集2 トークセッション
教員と学生による対話集VOL.5
**ファッションは
TPOを考えよう!**
～自己表現と衣服の関係

06 ぐるっと県大エコツアー!
県大の環境共生型キャンパス

08 県大YELLS
社団法人岩手県工業クラブ

09 卒業生紹介

10 SPOTLIGHT<特別企画・新入生座談会>
私たちの入学への挑戦とキャンパスライフ

12 IPU通信

平成22年度 岩手県立大学公開講座・滝沢キャンパス講座

いわての今を識る

開催場所 岩手県立大学滝沢キャンパス
岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52
※講師、タイトルは変更となる場合がありますので
ご了承ください。

受講者募集! 受講無料
どなたでも参加いただけます!
事前にお申込みをお願いします。

- 開催期間 平成22年 6/26～9/25(土曜日、全6日) 講義時間 10:00～12:00、13:00～15:00
講義開催1時間前から受付開始
- 講座1 6月26日(土) 13:15～15:15
食産業、農工商連携の岩手モデル
■ 関 満博氏【一橋大学大学院教授】
 - 講座2 7月3日(土) 10:00～12:00
農林業と野生動物との共存・共栄
■ 由井正敏氏
【(社)東北地域環境計画研究会会長
(岩手県立大学名誉教授)】
 - 講座3 7月3日(土) 13:00～15:00
岩手の住宅の現状と課題
■ 佐々木隆【盛岡短期大学部教授】
 - 講座4 7月24日(土) 10:00～12:00
勇気づけることばたち～ブリーフセラピーの知恵～
■ 遠山宜哉【社会福祉学部教授】
 - 講座5 7月24日(土) 13:00～15:00
岩手のいのち 健やかに「なす・かでる・おがす」
～いま、親・家族・社会に求められること～
■ 福島裕子【看護学部准教授】
 - 講座6 7月31日(土) 10:00～12:00
日本近代文学と岩手～岩手の郷土作家たち～
■ 松本博明【盛岡短期大学部教授】
 - 講座7 7月31日(土) 13:00～15:00
「時」を味わう～食と器を次世代に受け継ぐ営み～
■ 山田佳奈【総合政策学部准教授】
 - 講座8 9月4日(土) 10:00～12:00
コミュニティの再生と地域政策
～岩手のコミュニティを事例として～
■ 吉野英岐【総合政策学部教授】
 - 講座9 9月4日(土) 13:00～15:00
スタートした裁判員裁判
～岩手の裁判員裁判の意義と課題～
■ 石堂 淳【総合政策学部教授】
 - 講座10 9月25日(土) 13:00～15:00
食の地元学(楽)～本物って何だろう?～
■ 河野和義氏【(株)八木澤商店代表取締役社長】

お申込み先・お問合わせ先
岩手県立大学 地域連携室
〒020-0173
岩手郡滝沢村滝沢字菓子 152-89
E-mail kouza-10@mi.iwate-pu.ac.jp
TEL.019-694-3330 FAX.019-694-3331

》》全学759名の新入生を迎えました

4月6日、県立大学(入学者480名)、大学院(入学者71名)、盛岡短期大学部(入学者101名)の入学式が、盛岡市民文化ホール(マリオス)で開かれました。宮古短期大学部の入学式は4月5日に開かれ、経営情報学科107名の新入生を迎えました。

》》いわての産業の魅力を探るキャリア教育

本学と岩手大学の共同開催によるキャリア教育講座「地場産業・企業研究」が5月より開かれています。総合政策学部のキャリア教育関連科目として7月まで開かれる講座では、地元企業の魅力探求と課題の整理が大きなテーマです。地元企業への就職率向上を図るためには、どのような魅力を伝えるべきか、どのような課題があるのか、実際に地域企業の現場を訪ねて調査研究を行います。

》》2氏に名誉教授の称号を授与

岩手県立大学は、6月18日(金)に開かれた名誉教授の称号授与式において、幸丸政明氏(前副学長、前総合政策学部教授)と阿部芳彦氏(前ソフトウェア情報学部教授)の両氏に、その優れた功績をたたえ、名誉教授の称号を授与しました。幸丸前副学長は平成10年4月から平成22年3月までの12年にわたり、総合政策学部教授として教育・研究に、また平成20年4月からは副学長として尽力。阿部前教授は平成11年4月から平成22年3月までの11年にわたり教育・研究に尽力されました。

》》「いわて学」講座開講中

いわて高等教育コンソーシアムの「人材育成・地域文化拠点形成プロジェクト」の事業の一つとして、「いわて学」講座が開かれています。「いわて学」講座は、5大学(岩大・県大・盛大・岩手医大・富士大)の大学間で設けられている共通科目。6月12日の公開講座(アイーナ・いわて県民情報交流センター)では、「『希望郷いわて』の実現に向けて」をテーマに、達増拓也岩手県知事による講義が行われました。

》》中村学長が電子情報通信学会
功績賞を受賞

本学の中村慶久学長が、これまでの研究が高く評価され、電子情報通信学会の平成21年度功績賞を受賞し、平成22年5月22日(土)に機械振興会館(東京都港区)において開催された電子情報通信学会通常総会において賞状及び記念品が贈呈されました。

》》盛岡短期大学部公開講座
「ビジネス英会話」開講

盛岡短期大学部は、県大アイーナキャンパスにおいて全4回の公開講座「ビジネス英会話」を開講。受講生は、ビジネス・シーンで用いられる中級レベル程度の英語運用能力の習得を目指し、実践的なビジネス英会話を学びました。

※スペースの都合により4コマ漫画はお休みさせていただきます。

体育祭実行委員会の活動

滝沢キャンパス
宮古キャンパス

初の合同体育祭

Link Web IPU

開催までの道のり

第二回体育祭の講評



教員と学生と大学が一体となった
記念すべき日
学生支援本部長
柴田義孝教授(ソフトウェア情報学部)

アメリカでは、すぐれた大学とは、教員と学生と大学が一体となって、常に切磋琢磨する大学であると言われています。今日は、県立大学が、その第一歩を記した記念すべき日です。学生支援本部でも、学部間の垣根を越えて、このような機会を設けることができるように協力したいと思います。学生のみなさんの活動に感謝したいと思います。

実行委員会メンバーの感想



もっと全学で盛り上がる大会にしたい
佐藤渉実行委員長(社会福祉学部3年)

昨年の第一回体育祭直後から始まった、第二回体育祭のための準備段階から、学生による自主的企画として実施したいと考えました。最初は、一人ひとりの熱意に温度差があったのですが、よくぞここまでやれたと感激しています。もっとやれると思いますし、今後は県大の新たな伝統として定着できるように、企画の多様化を図りたいと考えています。



来年も実行委員になりたい
宮城董さん(社会福祉学部1年)

先輩たちを見習って、実践はもちろんですが、企画にも参加できるようになりたいと思います。当日参加したくても来れなくなった方がいたのは残念でした。来年は、もっとたくさんの人に参加してほしいと思っています。来年も実行委員になりたいと思っています。



実行委員を募集しています
佐々木健人さん(社会福祉学部3年)

第一回も実行委員として参加しました。宮古短期大学の参加が実現したことがうれしいです。事前の準備に苦労しましたが、予想以上の参加者に集まってくれました。全学の交流が主たる目的だったので、チームでの球技プレーをやりたい。来年に向けて、実行委員を募集しているので、多くの学生に参加してほしいと思います。



新しい伝統が生まれました
櫻井咲さん(社会福祉学部2年)

前期にあまり大きなイベントが無いので、5月の開催はベストだと思います。実行委員として他の学部の方とつながりながら、大学に新しい伝統が生まれる活動に関わることが良かったと思っています。第三回開催のためにも実行委員を増やしたいと思います。



川前保育園の園児の太鼓がかわいいね

実行委員との連絡係を務めた宮古短期大学の鹿野貴弘くん(中卒) MVP 受賞

宮古短期大学と盛岡短期大学部合同チームです

賞状をもつ笑顔、笑顔、笑顔

中村学長も熱心に応援です。



走れ!走れ! どんどん走れ!



なわとびもこの人数だとけっこうむずかしい

前夜からの小雨も上がり、五月晴れとなった5月15日、県大初となる全学体育祭が開催されました。全学体育祭が開かれるまでには、体育祭実行委員会(佐藤渉委員長)による熱心な活動がありました。体育祭実行委員会は、昨年開かれた第一回体育祭を呼びかけた有志6人による集まりから始まり、仲間を募って少しずつ人数を増やしながら、活動の輪を広げてきました。現在、実行委員会のメンバーは20人。佐藤渉実行委員長(社会福祉学部3年)の活動メモをたどりながら、開催までの道のりを紹介します。

大学にもっとにぎわいがほしい。だれもが参加できて、みんなで楽しめることがあるといいよね。僕だったらこんなことをしたい。私にアイデアがあるんだけど。キャンパスのかたすみで聞こえた小さな声が、少しずつ大きくなっていきました。やがて、有志が集まって決まったイベントは、全学体育祭の開催です。県大初となる全学体育祭開催までに、どんな取り組みが行われたのでしょうか。

主な活動内容

2009年10月
● 第一回体育祭の実行部隊、体育祭実行委員会発足

11月
● 第一回岩手県立大学体育祭を開催。

● 次回の体育祭へ向けて第1回体育祭の反省会を開く。
● 2、3年生を中心とした体育祭実行委員、体育祭参加者の募集をかける。
● 2010年2月
● 第二回体育祭の企画について練り始める。競技種別、競技方法、目標などを検討。

● 今年2月、メンバーが集まって企画会議が開かれました。どんな競技をやるのが良いのか、学部対抗で競い合うことが出来るか、どのような目標やテーマで体育祭を行いたいかなどが話し合われました。とにかくみんなが楽しめる大会にしたいというのが、メンバー一致の考えです。毎月のように会議は開かれ、企画は具体的に近づいていきました。この頃、佐藤さんには一抹の不安がありました。なかなか企画会議にメンバー全員がそろわなかったのです。本当に全学の体育祭が実現するだろうか、そんな佐藤さんの不安を察知したかのように、3年生となっていた5、6人の仲間が熱心な活動を続けていました。体育祭開催日3週間前から、メンバーの本気を感じ

るようになったと佐藤さんは振り返ります。
小さな打ち合わせを含めると、体育祭当日までのミーティングは50回を超える回数になっていました。
● 3月
● 第二回体育祭の企画案を完成させる。
● 運営の方法や各部の仕事などを考える。
● 一人ひとりの所属する部署を決める。
● 4月上旬
● 体育祭への参加者の募集を本格的に開始する。
● 物品の作成や参加者へ配布する資料の作成を行う。
● 4月中旬
● 参加者の人数や男女比を考慮し、体育祭の企画について検討しほぼ企画を完成させる。
● 宮古短大と連絡を取り始める。
● 4月下旬
● 参加者の応募を締め切る。
● 5月1、10日
● 競技を実際に実行委員でやってみる。
● 体育祭当日のりハールを行う。
● 5月14日
● 体育祭の前日準備を行う。
● 5月15日
● 体育祭本番を迎える。



● 5月17日
● 第二回体育祭の反省会を開く。
全学体育祭当日、前日からの雨が嘘のように晴れ渡り、岩手山が青空にくっきりと浮かび上がっていました。何度も打ち合わせを繰り返して、実行委員によるりハールも行っていきます。後はケガ無くみんなが楽しんでくれることを願うだけです。
宮古短期大学の学生たちが、バスでかけつけてくれました。総勢38名の参加です。参加者約300名となった県大初の全学体育祭が実現。拍手と笑顔の一日が過ぎていきました。



和裁・洋裁を がんばった助手時代

早川 ● 教員と学生による対話が学生企画としてスタートして第5回目を迎えました。先輩たちのセッションのように活発な意見交換ができればいいのですが、はじめてトークセッションに参加することになり、少し緊張しています。よろしくお願ひします。

小山 ● 同じく初参加の小山です。よろしくお願ひします。

菊池 ● 二人とも緊張していますね。私も少し、緊張気味かな。短大の学生以外と身近にお話しするのは、そんなにあることではないですからね。今日は、お互い楽しみながらお話しできるといいですね。

早川 ● 菊池准教授のご出身はどちらですか。

菊池 ● 生まれは八戸市です。岩手県立大学盛岡短期大学部となる前の岩手県立盛岡短期大学に、大学を終えてすぐ助手として入りました。学生時代も家政学部の被服学科でしたし、現在に至るまでずっと衣服のことを教育・研究しています。この道、何年になるのかな、うん十年ですわね(笑)。

小山 ● 卒業してすぐ助手になるって大変そうですね。

菊池 ● 誰でも同じだと思いますが、最初は夢中でした。学生に追いつけ追い越せという感じで、和裁、洋裁をがんばっていました。新米教員ですから、専門の世界では知らないことも多かった。着られるものを学生にサンプルとして見せられるようになるまでに、数年かかりました。もともと子ども時代から針仕事は好きで

自由なファッションが良いとするのではなく、同時にその時代の道徳や社会の規範を考えてほしいと思います。ファッションはTPOを考えながら楽しみたいですね。いろいろな世代のいる場では、特に考慮が必要でしょう。いろんな世代の人たちに、自分の価値を押しつけるのではなく、相手の価値を理解する必要もあるのではないのでしょうか。

岩手は日本唯一の ホームスパン生産県

早川 ● 菊池准教授の研究活動には、ホームスパンの研究がありますね。僕は、ホームスパンという言葉が初めて聞いたのですが、ファッションに関係があるのですか。

菊池 ● ホームスパンって何というこ



ホームスパン衣料を着用した際の保温力測定実験

したから、がんばれたのかな。

自己表現とファッション

小山 ● 最近、スポーツ選手の衣服の乱れが話題になったことがありましたが、最近の若者のファッションをどう思いますか。

菊池 ● 被服心理学という学問があります。被服の心理的、社会的機能に関する教育・研究を学問領域としてしています。ファッションを被服心理学から考えてみましょうか。服装とファッションの関係は、その

ファッションは TPOを考えよう!

～自己表現と衣服の関係～

ファッションは TPOを考えよう!

教員と学生が身近な話題から現代社会の問題まで自由に話し合うトークセッション。
講義では聞けない疑問、珍問なんでもありの学生企画コーナーです。

Cast

菊池 直子・盛岡短期大学部 生活科学科 准教授
Kikuchi Naoko

早川 陽・社会福祉学部2年
Hayakawa Akira

小山 大輔・総合政策学部2年
Oyama Daisuke

学生ボランティアセンター(通称ボラセン)に所属。今年度より地域貢献ボランティアサークル「風土熟人R」の代表を務める。矢巾町出身。(写真左)

学生ボランティアセンターに所属。自身の学びのテーマでもある地域ボランティアや広くは地域貢献について考えながら、実際の経験を深めたいと思っている。一関市出身。(写真右)

歩んできた歴史を考えると見えてきます。衣服は、自由なファッションを楽しむこともできますが、道徳や規範を表すものでもありますね。

早川 ● 今では、だらしないさもファッションだとする傾向もありますが。

菊池 ● 時代の価値観が変わってきているのでしようね。かつてテニスのスタイルでは、短パンの上にウェアを出してブレーサーなど考えられなかった時代もありました。モラルとファッションのギャップは、時代とともに変化します。もはやルーズソックスを高く高校生はいません。なんでも自由なファッションがいよいよねという時、道徳や規範を表す衣服の役割は忘れられています。

小山くんの質問にもどりますが、自由なファッションが個性を表現している、という考えは間違いではないけれど、スポーツ選手が公式ユニフォームを着る場合、ユニフォームを着る役割を考えていれば良かったね。いつでも、なんでも、



菊池 直子
日本女子大学・家政学部・被服学科卒業。岩手県立盛岡短期大学助手、講師。岩手県立大学盛岡短期大学部助教授を経て2007年4月より准教授。研究領域:介護福祉衣服に関する研究、ホームスパンの特性と着心地の検討。担当科目:衣環境論、衣服材料学。日常何気なく着ている衣服について、温度環境への適応、運動への適応、皮膚生理への適応、安全性の確保という4つの面から学習することにより、健康で快適な着衣のあり方について理解してほしいと学生を指導している。また、新しい素材や岩手特産の染織についても授業に取り入れている。主な教育研究活動:「岩手県のホームスパンに関する研究」、「サポートファッションのすすめ—介護福祉用衣服の展示」、アイーナキャンパス盛岡短期大学部公開講座など。

ホームスパンとしては有名ですね。岩手県は、ホームスパンを産業化し、今もなお生産が続いている日本唯一の県なんです。農家の副業だった時代もありましたが、昭和50年代のはじめをピークに生産量は減少しています。

小山 ● なぜ、岩手に残ったんですか?

菊池 ● 岩手の製品の品質が良かったからでしょうね。ホームスパンは、やわらかくて軽いのが特徴です。美しく品質の良いテキスタイルを作ることが継続につ

ながると考えています。ホームスパンが岩手のブランドとしてもっと注目されるようになればいいですね。

小山 ● もっとお話を続けたいのですが、次の機会として、これですとまず終了です。ありがとございました。

菊池 ● これを機会に短大にも出かけてください。

早川 ● ありがとうございます。ぜひまた、お会いできる日を楽しみにしています。

菊池准教授が指導する生活科学専攻のカリキュラムでは、人間生活の基本となる「衣」と「住」をメインにした科目で構成されていますが、専門分野に偏るのではなく、岩手の地域文化、伝統、気候風土などを考慮した科目も充実させ、幅広い視野を持った人材育成を目指しています。



環境負荷を最少限に抑えた施設群
発想は百年先未来のエコロジー

「自然」「科学」「人間」が調和した新たな時代を創像することを基本理念に1998(平成10)年4月に開学した岩手県立大学。岩手山を望む広大な丘陵地に郊外型キャンパスとして誕生した施設群は、穏やかな丘陵の起伏を生かして構成されています。建設においては、さまざまな省エネルギー先端技術が活かされ、環境負荷の少ないエコな大学が実現しています。

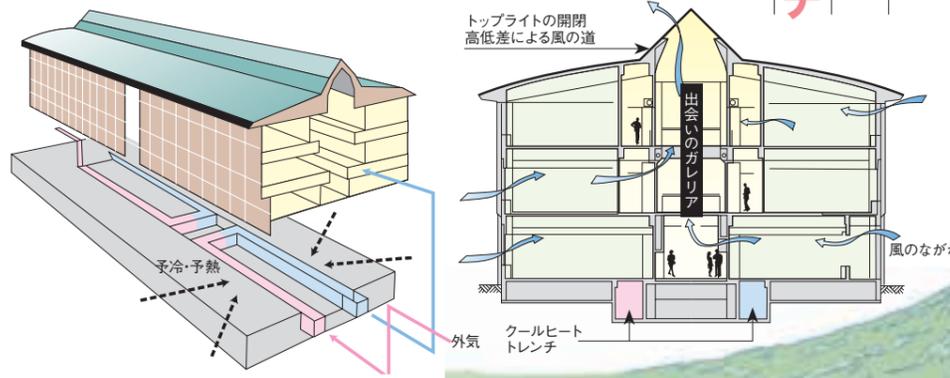
パッシブソーラーの発想を生かしたエコスクール



自然環境を保存しながら美しい景観を実現することを大きなテーマとして建設された県大施設ですが、最も大きな特徴は、自然エネルギーの有効活用です。21世紀は環境の世紀であると言われていますが、県立大学は、今から12年前の開学当時において、尊重すべきは環境であるとして考えていました。環境にできるだけ負荷を与えないための建設方法として、パッシブソーラーシステムの発想を生かし、当時としては最先端のエコスクールを実現したのです。パッシブソーラーシステムとは、太陽や風などの自然エネルギーを施設に取り入れ、そのエネルギーを有効に活用する技術や仕組みのことを指します。開閉が可能なトップライト(天窗)、取り入れた自然の風の流れを活かすことのできる吹き抜け構造、自然光の入る出合いのガレリア(廊下空間)、外気の予冷・予熱のために設置されたクールヒートトレンチなどの施設に、パッシブソーラーの発想が活かされています。

世界最大級のクールヒートトレンチ

空調用外気の温度を地中熱の利用によって、夏涼しく、冬あたたかい状態に保つために大きな効果を発揮しているのが、クールヒートトレンチ(外気溝)です。気候条件によって、空調の外気取り入れルートとトレンチ経由に切り替えて、外気の予冷・予熱を行っています。夏の外気温を6.7℃下げ、冬の外気温を9.0℃上げる効果があります。総延長1,300メートル、接地面積4,000平方メートルというその規模は、世界最大級。



県大の環境共生型キャンパス

ぐ る っ と 県 大 エ コ ツ ア ー !

県大施設の心臓部・空調、熱処理、電気系統施設群



安全安心を見守る中央監視室
 中央監視室では、県大施設の設備機能を安全に運用するため、専門の技術者が常にコントロールモニターを監視しています。また、急病など緊急の場合に備えて、いつでも対応できるように、エントランスやエレベーターなど、主な施設空間を見守っています。



共通講義棟



県大の施設の中には、宮澤賢治の「銀河鉄道の夜」を題材に配置されている造形物がいくつかあります。十字は、旅の始まりを示す白鳥座の北十字と終わりを告げる南十字星をシンボライズしたものです。宮澤賢治の物語をモチーフとする造形は、ほかにもありますが、ぐるっと県大を歩いて探してみましょう。

講堂



共通講義棟にある講堂は、公開講座や各種フォーラムなどに使われますが、座席の数は664席を数えます。

県大モール



メディアセンターの緑のドームが見える石畳の美しい中庭が県大モールです。それぞれの学部棟の入り口には、学部のコンセプトを表すモニュメントが建っています。各学部棟を結ぶエントランス廊下を全学部にわたって一周すると、約500メートルとなります。

森林公園



大学に隣接して、県大生もよく訪れる滝沢森林公園があります。水辺の広場、林間広場、つつじ園などがあり、森林浴を楽しむこともできます。

メディアセンター

県民に開かれたメディアセンター・図書スペース
 メディアセンターにある図書館は、一般の方にも開放しています。開架閲覧スペースの図書及び雑誌等は、すべて自由に利用することができます。岩手に関する図書を集めた「いわて学図書コーナー」が好評です。



環境に配慮した環境親和型建築を実現することができました
 (株)日建設計

総合政策学部環境政策講座
 渋谷見太郎教授

昼には照明のいらないトップライト光の活用やクールヒートトレンチの活用など、地域の自然環境の特性を活かした設計は、開学当時の最先端の発想と技術が遺憾なく発揮された結果だと思えます。県大のエコ建築は、環境教育教材として最適なものです。もっと多くの人に知ってもらい活用することを提案したい。

大学など高等教育施設は、生涯学習活動を支援する地域拠点としての高機能化や快適性が求められます。そのため、エネルギー消費量と環境負荷の増大が懸念されます。また、学内活動の活発な期間と夏・冬の休暇期間とは、大きくエネルギー消費量が異なることから、エネルギー消費を柔軟かつ適切にコントロールする設備と技術が求められます。このことから、岩手県立大学の施設は、環境に配慮した学校施設、エコスクールをめざし、環境親和型建築を実現するために、さまざまな手法を取り入れています。中でも「建物の寿命をのばす工夫」「自然の恵みを活かして使う工夫」「無駄なく効率よく使う工夫」の3つを重点項目として計画を進め、期待通りの優れた成果を得ることが出来ました。

環境共生型キャンパスの3つの重点項目

- 1)機能変化に対応し、維持管理が容易で、永く使える建物構造
 将来の増築対応に備えて、各学部が独立した増築が可能な配置としている。
- 2)エネルギー消費を抑えて
 周辺環境への影響を最少とした世界最大級のクールヒートトレンチによる地中熱回収等。
- 3)負荷変動が大きい建物を効率的に運用する省エネシステムを実現
 コージェネレーションシステム(発電機排熱の冷暖房利用、契約電力の制御)を採用。

H21運用実績：床面積あたりの年間一次エネルギー消費量を、1,027MJ/m²・年と、一般的設計に比べて運用段階のCO₂排出量を38%削減。ライフサイクルでのCO₂排出量を約20%削減する設計となっています。

※岩手県立大学は、空気調和・衛生工学会振興賞(第15回・2001年)の技術振興賞を受賞しています。
 ※(株)日建設計は、東京スカイツリーの設計監理を行っている日本有数の建築設計会社です。

夢を生きる 卒業生の今を知りたい

CAREER MESSAGE

「メッセージ」

学んだ要求分析という学問が大いに役立っています

富士ゼロックス岩手株式会社盛岡支店 中村 久美さん
●ソフトウェア情報学部 [平成20年3月卒]

高度情報化社会である現代においては、電話、ファクス、コピーなどを一体化させた高性能複合機は、企業経営には欠かせない情報機器として知られています。中村さんは、その販売営業職です。

「営業といっても、複合機を売ることだけが仕事ではありません。クライアントのために、当社では何か出来るのか、私はどんな役に立てるのかを常に考えています」

中村さんが、県大で学んだ専門分野は、要求分析という学問です。システム設計やソフトウェア設計を行うためには、顧客が何を求めているかを正確に知る必要があります。顧客の必要性や要求を調査し、課題を分析する工程や手法を要求分析と言います。

「ゼミで深く学び追求してきた学問が役に立っています。顧客の要求に応じたソリューション(課題解決法)のご提案や情報提供をすることが多いですね」という中村さん。日常の仕事の中で、中村さん独自の分析能力や創造力が生かされています。



心構えが重要なのだと気づいてからは何も恐くはないと悟りました

JA新しいわて東部共済推進センター 佐藤 隆史さん
●総合政策学部 [平成20年3月卒]

佐藤さんは、組合員のために共済関係の請求や加入案内を主な業務として担当しています。一日の大半は外に出ていることが多い仕事です。

「仕事のエリアは広く、一日に100kmは車で走り回っています。週に500kmなんて珍しいことではありません。体力には自信があるので苦にならないですね」という佐藤さん。

社会人3年目を迎える佐藤さんには、学生時代にかけられた言葉が鮮明な記憶として残っています。

「くじけることもあるかもしれないが、3年はがんばってみなさいと行政法ゼミの教授に言われました。お客様からお叱りを受けることもある仕事ですが、教授の言葉を思い出すと前向きになることができます」

自分は積極的な方ではなかったという佐藤さんですが、最近、お客様の前で緊張しなくなったといいます。

「自分の中の心構えが重要なのだと気づいたんです。お客様の大切に行っていることをしっかり聞き取ろうという心構えがあれば、何も恐くはないと悟りました」



県大 YELLS のコーナーでは、県立大学に寄せられたメッセージをご紹介します。

グローバルな人材を目指して!

社団法人岩手県工業クラブ 会長理事 株式会社盛菱代表取締役 長岡 秀征さん



■岩手県立大学との巡り合い

IPUの学生諸君 元気に大学生活を楽しんでいますか。縁あって岩手県立大学へ入学したわけですがちょうど今頃は、周りの環境にも慣れて新しい友人やサークル活動にいそしんでいるのではないかと思います。

夢や希望を持って岩手県立大生になったわけですが、上級生になるに従って夢と現実の間に悩まされたり、自分の進路や学業、友人関係等多くの悩み多き年頃ではないかと思えますが、その時に岩手県立大学の設立の趣旨を思い起こして欲しいと思います。

長い人生の中で大学の4年間は、貴重な時間です。長いようで短い、何もしなくても一生懸命勉強しても、あつと言う間に過ぎていくものです。同じく時間が過ぎていくのであれば有意義に楽しんで過ごすことが大事ではないかと思えます。

卒業し、社会に入ると更に大学で学んだことのないような色々な出来事につづかり、悩み、苦しみ、それでも前に進まなければなりません。人生とは上手くできており、苦しい時の後には楽しいことが沢山あります。

す。大学で学ぶ教養や専門的知識も必要ですが、常に学ぶ心と笑顔をそして明確な目標を持ち続けて欲しいと思います。

■岩手県の産業構造

ここで少し、岩手県の産業についてお話をさせていただきます。本県は第1次産業の比率が高く、第2次産業としては電気・精密機械、自動車関連等の企業が北上川流域に多く集積し、食料品、木材、土石、鉄鋼等の素材型産業から電気、精密、自動車等の加工組立型産業へと大きく変化してきております。

このようにものづくり産業の集積は進んでいるものの、研究開発や高度な技術をもつ企業が少ないため大学で学んだ専門的な知識を生かせる企業が少ないのが現状です。

■1%と30%

岩手県の経済規模は、主要経済指標で見ると全国を100とした場合一般に1%経済と言われております。総人口、県内総生産、事業所数、従業員数等どれをとってもほぼ1%程度で例外的には第1次産業の農業、林業、漁業等は3~6.5%と言われております。

このような状況の中で県立大学をはじめ県内の大学生の県内就職率は、年々減少し、現在は30%(工学系では20%)を切っていると言われており、残りの70%以上の学生は首都圏をはじめ県外に就職をしている状況であります。

特に情報・工学系の学生だけでみますと県内へ就職を希望する学生は30~40%あると言われておりますが、実際の就職状況は20%のことで更に低くなっております。この原因としては、学生が自分達の技術を生かせるような大手の企業が岩手県内には少ないことと学生を必要としている中小企業の情報が不足していることではないかと思われております。

■日本・世界中で活躍する人材となれ!

岩手県内で多くの費用と時間をかけて育てた高度な専門知識をもった約7割の学生が卒業と同時に首都圏の企業に就職するということは、本県にとっては大変な損失となるわけですが反面、県立大生として社会のさまざまな課題に挑戦し、岩手のみならず日本や国際社会で活躍できる人材・必要人材になっていただきたいと思えます。

学生一人ひとりの力は、小さいけれども皆が集まればそのパワーは大きくなるので日本全国、世界中に県立大生のネットワークを作り、今後20年、30年と歴史を積み上げてその輪を更に広げていき、あらゆる分野においてIPUの存在感を示していただきたいと思えます。

そして、岩手県立大学の学生が中核的人材となり、国際社会の中でリーダーとしての存在感と岩手県の地域振興に貢献していただくよう学生諸君のご活躍を期待するものであります。

平成23年度入試日程

(※出願受付期間、学力検査等、合格発表は統一項目です)
注意:ここでは、おおまかな日程の紹介のみ記載しています。詳しくは、岩手県立大学ホームページをご覧ください。

岩手県立大学

[AO入試]

- 出願受付…7月28日～30日(面談I)
8月25日～27日(面談II)
- 学力検査等…8月9日～12日(面談I)
9月9日～12日(面談II)
- 合格発表…9月17日

[推薦入試]

- 出願受付…11月1日～8日
- 学力検査等…11月28日
- 合格発表…12月3日

[一般選抜] (前期・後期)

- 出願受付…1月25日～2月3日
- 学力検査等…2月25日(前期)3月12・13日(後期)
- 合格発表…3月4日(前期)3月20日(後期)

[大学入試センター試験] …1月15日、16日

盛岡短期大学部

[推薦入試] (一般・特別)

- 出願受付…11月1日～8日
- 学力検査等…11月28日 ●合格発表…12月3日

[一般選抜]

- 出願受付…2月12日～17日
- 学力検査等…3月4日 ●合格発表…3月11日

宮古短期大学部

[推薦入試] (一般・特別)

- 出願受付…10月20日～27日
- 学力検査等…11月10日 ●合格発表…11月19日

[一般選抜]

- 出願受付…1月20日～28日
- 学力検査等…2月17日 ●合格発表…2月25日



県大サテライトシステム



量の資料と自己推薦書に限られているので、資料がたくさんあれば良いというわけでは無いんです。充実した内容にするために、高校の3年間を自分でしっかり振り返ってまとめる必要がありました。

自信の持てる積極的な考え方や活動を

佐藤 推薦入試を受験しましたが、自分の生徒会活動を評価してくれる大学が良いなと思っていました。面接や小論文試験のための練習は熱心にやりました。合格のために勉強ではなく、自分を評価してくれる大学を選ぶんだと言えるくらいの積極的な考え方や活動が出来ていると良いと思います。

深澤 センター試験の後に、急激に脱力感におそわれたことを思い出します。高校の先生に励まされながら県大進学を最終的に決意したのは1月30日頃でした。それから必死で県大受験に向けてがんばりました。英語は以前から毎日やっていたので、効果があつたと思います。今では、本当に県大に入って良かったと思っています。

新入生のキャンパスライフ

小松 高校では、小論文の勉強がありましたが、受験には大いに役に立ちました。毎週土曜日に小論文練習があつて、県大の受験を決めた3ヶ月前から、週に1回提出して練習していました。個人指導してくれた先生に感謝しています。

杉澤 僕も小論文は6つぐらい書きました。なんべんも繰り返し書き直し作業をしました。全部で13回ぐらいは書き直したと思います。いろんな先生から聞くこと、調べることで、自分に妥協しないことが大切な。

司会 では、念願の大学に入って、どんなことを感じていますか。そして、どんな大学生活を送っていますか？

佐藤 みんなもそうだと思うけど、入学式は感激の祭典でした。だって、入学できたことを実感する日ですよ。今は、食費が予想以上にかかることが悩みです(笑)。だまっけても食事が出してくる自宅のありがたさがわかりました。

小松 入学式の時に、まわりに女子が多くて、最初はとけ込めないと感じました。男子をみつけて集まったりしていました(笑)。

瀬川 社会福祉学部では、新入生のためのオリエンテーションがありました。グループワークで、大学生活に期待することなどを話し合いました。これから同じ道を目指す仲間たちとすぐに仲良くなれる良い方法だと思います。

杉澤 宮古短期大学部は、学生会主体の活動を大学がサポートしているという印象を受けます。

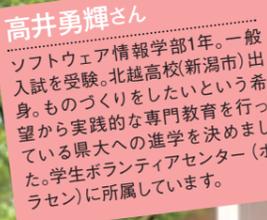
先輩からのアドバイス 同じ出身校の先輩と話をしよう！

司会 入学当初は誰でもとまどうことがあるはず。悩んでいるより、積極的に、自分の出身校の先輩と話をし、疑問をぶつけて、実際の経験を聞いてほしいと思います。いろんな人が、多様な世界に向かい合っていることを知りましょう。

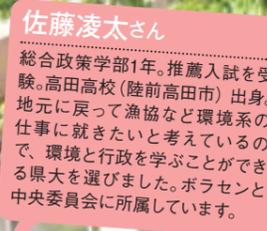
宮古からもサテライトで参加！



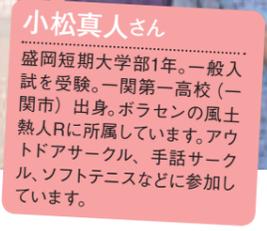
杉澤悠平さん
宮古短期大学部1年。推薦入試を受験。盛岡市立高校(盛岡市)出身。生まれは栗石町です。県大総合政策学部への編入学を目指しています。宮古市内の卓球クラブに参加しています。



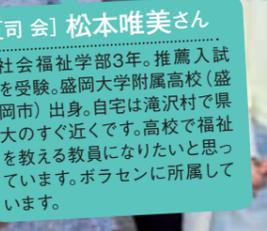
高井勇輝さん
ソフトウェア情報学部1年。一般入試を受験。北越高校(新潟市)出身。ものづくりをしたいという希望から実践的な専門教育を行っている県大への進学を決めました。学生ボランティアセンター(ボラセン)に所属しています。



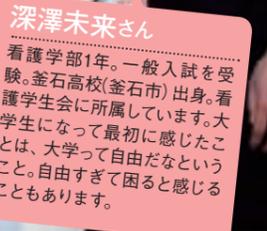
佐藤凌太さん
総合政策学部1年。推薦入試を受験。高田高校(陸前高田市)出身。地元に戻って漁協など環境系の仕事に就きたいと考えているので、環境と行政を学ぶことができる県大を選びました。ボラセンと中央委員会に所属しています。



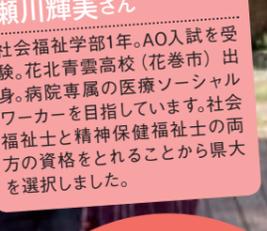
小松真人さん
盛岡短期大学部1年。一般入試を受験。一関第一高校(一関市)出身。ボラセンの風土熱人Rに所属しています。アウトドアサークル、手話サークル、ソフトテニスなどに参加しています。



司会 松本唯美さん
社会福祉学部3年。推薦入試を受験。盛岡大学附属高校(盛岡市)出身。自宅は滝沢村で県大のすぐ近くです。高校で福祉を教える教員になりたいと思っています。ボラセンに所属しています。



深澤未来さん
看護学部1年。一般入試を受験。釜石高校(釜石市)出身。看護学生会に所属しています。大学生になって最初に感じたことは、大学って自由だなということ。自由すぎて困ると感じることもあります。



瀬川輝美さん
社会福祉学部1年。AO入試を受験。花北青雲高校(花巻市)出身。病院専属の医療ソーシャルワーカーを目指しています。社会福祉士と精神保健福祉士の両方の資格をとれることから県大を選択しました。

SPOTLIGHT 私たちの入学への挑戦と キャンパスライフ

県大生は、県大に入るためにどんな勉強してきたんだろう？
県大にはどんな魅力があるんだろう？
そんな素朴な疑問に応えるために、1年次前期の大学生活を送る新入生に、
進学の経緯や勉強法、そして県大の魅力を聞きました。



[特別企画] 新入生 座談会

Link Web IPU

県大進学のために どんな勉強をしましたか？

司会 高校時代のことを聞きたいのですが、県大へ進学することを決めた後は、どんな勉強をしていましたか。

過去問題と向き合おう

高井 センター試験を入試要件としない一般入試Aを選んだのですが、考える力が求められる問題が出ました。記号を読み取って文章にしないか、普段は考えもしなかったことが問題に出るんですね。柔軟な発想力が必要です。対策は？と聞かれても自分でもしつかりと答えられない。ただ、言えることは、過去問題と向き合うことかな。

AOでは高い自己評価が必要

瀬川 AO(アドミッション・オフィス)入試は、県大で学ぶことを強く希望していること、能力や活動について高く評価できるものを持っていることを自己評価できる人が、自己推薦する入試です。ですから、自分の持っている良いところをアピールすることが求められます。私の場合は、生徒会活動やボランティア活動を行う同好会を立ち上げたことなどを熱心にアピールしました。高校2年生の冬からこの入試方法で挑もうと決意しましたが、対策時期としてはスタートが遅い方だと思います。

司会 AO受験のために自分を推薦するって、活動報告書のようなものを提出するんですか？

瀬川 はい、高校生活3年の成果を自己推薦書という形で提出しなければなりません。それも、一つの封筒に入るだけの分量を受けました。研究室は、いつでも来ていいよというようなオープンな感じなんです。今は編入学を目指して、英語をがんばって勉強しています。

小松 就職のことを相談するために教授の研究室を訪ねたけど、就職指導担当の先生だったこともあって、とても参考になりました。

高井 ソフトウェア情報学部は課題が多いので、けっこう真剣に勉強しています。食費の話が出たけど、県大の学食はオススメだよ。時々フェアがあつて、期間限定沖縄フェアとかね(笑)。安いし、旨いし、楽しめ(笑)。

瀬川 大学祭の実行委員なので、協賛企業への企業訪問をしています。土曜日は、「いわて学」の講義を受けています。けっこう多忙です(笑)。

深澤 看護学部は、専門学習の時間が多いいので、1年生から本気で勉強の日々を送っています。少しは、のんびりもしたいけど(笑)。

小松 僕は、ボラセンにいる時間が長いかな。それと就職支援センターで、就職のための資料がしや勉強を始めています。僕も学食はいいと思う。先生とよく一緒に食事しますよ。学食のある学生ホール棟のラウンジで、また会いましょう(笑)。